

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3090100193		
法人名	株式会社 松鶴		
事業所名(ユニット名)	松鶴松江吉番館(グループホーム)		
所在地	和歌山県和歌山市松江東二丁目4-32		
自己評価作成日	H27年11月10日	評価結果市町村受理日	平成28年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp">http://www.kai.gokensaku.jp</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成27年12月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域の中で普通の住宅ように生活して頂けるよう、地域内の神社や幼稚園、他施設との交流、高齢者のふれあい会への参加を通じて、地域に密着した介護を心掛けています。職員も内外の研修や勉強会に積極的に参加してスキルアップに努めています。利用者さん一人ひとりに寄り添ったキメの細かい介護に力を入れています。又健康管理に置いても月2回の往診、365日24時間対応の訪問看護にて、手厚い対応をしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の理念に挙げられている「明るく楽しく元気に家族のように接する」ことで、地域に密着した介護を日々実践している。職員は「元気な介護をして元気に暮らしてほしい」と、周りを元気にしている。事業所が開催する夏祭りでは、利用者やその家族、職員と家族、地域住民の方々等の参加があり、大勢の人たちで楽しい行事を作り上げている。また健康管理を行い、医療面でも安心して生活できる体制を整えている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自施設の理念をよく理解して、地域に密着し、明るく楽しく家族のように接し、心のこもった介護を実践している。	管理者は常に理念を意識し、明るく楽しく元気に家庭で生活するように接している。職員もそのような接し方ができている。新人職員には研修等で理念を意識付けしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と利用者を対象にした夏祭りの実施や、近くの幼稚園との交流、近くの神社への参拝や祭の参加、高齢者のふれあい会への参加等でつながりをもっている。	利用者は地域で暮らす高齢者として、近くの幼稚園児とのふれあい会や、地域からの声掛けで食事会に参加し歌や踊りを楽しんでいる。また、事業所の夏祭りには地域の方々の多数の参加を得て楽しく交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の人達との挨拶や、日常的な会話、又利用者の屋外での様子を機会ある度、観てもらったり、畑の収穫風景や、水やりなど、見て頂くことにより、身近に感じてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進委員会を開催し、地域包括センターの職員、松江地区の社会福祉協議会の会長、利用者の家族さんに参加してもらい、報告や、ご意見を頂いている。	運営推進会議では、家族代表からは食事に関する意見や、地区の社会福祉協議会の会長、包括支援センターの職員からも行事等の情報を得て、話し合いを行い、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や、介護保険課、介護認定調査員等と連絡を取りながら協力関係を築いている。	市の担当者とは情報共有も出来ていて、事業所の取り組みを積極的に伝えている。介護保険認定調査時には担当者とも連絡を取りながら協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及びすべての職員が、身体拘束をしないケアの実践の目標をもって、常時、勉強会や職員会議の折に再認識、再理解ができるよう取り組んでいる。	勉強会や職員会議で、身体拘束をしないケアについて学び、出席できなかった職員には記録を確認したり直接主任に聞く等し、正しい知識として認識している。玄関は施錠せず、常に見守りや声掛けを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について積極的に研修会や、勉強会に参加して、学ぶ機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会があれば、積極的に参加して、必要性に応じて活用できるように、知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に解りやすく説明するとともに、一つ一つ確認を得ながら進み、疑問質問には丁寧に細かく解りやすく説明して納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族等への意見の反映は内容に応じて、職員会議や運営推進委員会や幹部会議にかけて、可能な限り反映できるよう努めている。	家族の面会時や運営推進会議等で、きめ細かく一人ひとりの要望を聞くよう努めている。出された意見や要望は可能な限りサービスの改善に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員用に「みんなの声」と名付けた意見箱を設置し無記名で書いて入れるようにしている。また意見の言いやすい環境をつくり、検討して反映させている。	職員が意見を出しやすくする方策として意見箱を設置している。また、休憩時間や屋休みには直接管理者へ意見や提案が出されており、意見が言いやすい環境となっている。出された意見は運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の長所を活かせる環境や状況を作ることにより、やりがいや、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に内外の勉強会や研修に、適材適所を考え職員を参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内外の行事や研修会には同業者との手伝い合いの交流を持ち、学びや気付きを得て、サービスの質の向上に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人の話を傾聴することにより、困っている事、不安なこと、要望等把握し、早い段階で信頼と安心が得られるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初に家族の話をじっくり聞くことにより、困っている事、要望等適格に把握し、信頼が得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行うことにより、必要としている支援や他のサービス利用も見極められるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを見つけ出し日常生活の中で自然と行えるように「声掛けや、必要物品の準備等行いながら、協力し合いながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の方を交えて話をすることもあり、家族の絆を大切にする支援を心掛けている。また夏祭り、餅つき大会には家族にも参加してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への一時帰宅や、近隣の方への挨拶など、慣れ親しんだ所を大切にしているよう、支援に努めている。	馴染みの関係を大切に、電話を掛けることができる方や手紙が書けることができる方への支援も行っている。墓参りや散髪等、家族の協力も得られ本人の希望する支援が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限り日中はホールで音楽を聴いたり外出や、日なたぼっこ、洗濯たたみ、食器拭き、おやつ作りなど、利用者同士が関わり合い支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談には、丁寧親切に対応し、お会いしたときには挨拶、会話をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族のかたと、日ごろから話しをすることにより意向の把握につとめている。又困難な状態であっても、可能な限り対応できるようつとめている。	一人ひとりの思いや希望は聞ける限りは聞いていて、外食や買い物等の希望もある。意思疎通の困難な場合は、日頃の関わりや家族からの聴取、ケア会議での検討を重ね、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日頃の会話等を通して把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や、職員からの聞き取りや、本人の心身もYプス観察や、有する能力の状態の変化に注意をはらいながら、現状把握につとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族からの希望を聞くなどして、また職員間の話し合いの中で援助の見直しや、今必要な事やものは何かを見出し、介護計画を作成している。	介護計画作成については、本人・家族からの希望や日頃のケアでの気づき、医療面の意見も取り入れて現状に即した介護計画を作成している。また、見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア会議で職員間での情報の共有をしながら実践し、結果や、変化、気づき、工夫等を個別記録に記入し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の活動や他の介護サービス事業所との情報交換等を行い、対応できるようこころがけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の神社への参拝や、祭事の参加、幼稚園児との交流や、高齢者のふれあい会に参加したりして楽しく暮らしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診により密に連絡をとっている。また週1回の訪問看護が来館し、バイタルチェックや相談等行っている。また急変時にも相談し、指示を仰ぐ等の対応をしている。家族にも、常に現状報告し急変時の対応も決めている。	かかりつけ医については入居時に説明し、承諾を得ている。また、眼科や皮膚科等へは職員の介助の元適切な受診ができています。受診の情報は連絡ノートや記録に記入し、すべての職員が共有できるように取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護が来館し、バイタルチェックや相談等行っている。また急変時にも相談し、指示を仰ぐ等の対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは定期的に情報交換を行い、関係作りに努めている。また入院時の病状の経過や退院後の対応の相談等、密に連絡をとって、支援に活かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る限り、本人家族が望む支援ができるよう努めている。終末期ケアも行い、契約時にも意向を伺い、その後も段階的に家族、医療機関、職員共々、方針を共有して支援に取り組んでいる。	重度化した時や終末期については出来る限り本人・家族の望む支援ができるように努めている。看取りの希望や入院の希望もあるが、今後看取りについては書面で意向の確認ができるように検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、早期に対応できるようにしている。また職員は応急手当や初期対応の実践力を習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員により年2回の災害訓練の指導を受けている。また隣接する老健施設と協力体制を築いていたり、地域の避難訓練にも職員が参加させてもらっている。	昼夜を想定した訓練を行っている。地域からは避難訓練に利用者の誘いもあるが体力的に無理があり、職員が参加し避難経路を確認している。備蓄は隣の老人保健施設に依頼している。	災害時、職員だけの避難誘導には限界があり、地域住民の協力は欠かせない。様々な災害を想定して、今後は地域との協力体制が築いていけるよう、取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に一人ひとりの誇りや、プライバシーを損ねないような言葉かけや対応を心がけている。	管理者・主任・職員は、利用者一人ひとりに応じた対応を心がけている。一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの確保に努めるように職員間で話し合いもし、意識し、気になることはその場で注意しあえている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どうしてもらいたいのか確認をし、利用者が自己決定しやすい様な雰囲気作りや対応をして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	独り一人の利用者の希望や、生活ペースに添うように支援する事に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カットを定期的にご利用したり、行事や、外出時には、特にその人らしいおしゃれが出来るよう支援し、常にボタンや、ほころびを直しゴムの入れ替え等に、心配りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共同生活であるため、望み道理にはなかなか難しいが、出来るだけ定期的に利用者の希望をとり入れ、職員が中心になり利用者にも手伝ってもらって、一緒に食事をする会、「おかめ会」と名づけ、楽しんでいる。なかなか評判が良い。	毎月1回の「おかめ会」は利用者の意見を聞き、食事を楽しむ会として評判がよく、継続できている。毎日のおやつも手作りで、出来る人には手伝ってもらっている。隣の菜園で採れた野菜も食卓に上り、季節を感じる食事の支援となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量のチェック表を作成して管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実地している。出来る人には自己にて、出来ない人には介助にて、また義歯の洗浄や保管などして、清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し自己にてトイレに行こうとしない人には、定期的に声掛けし、失敗のないよう支援し、オムツ類の使用量が減少していけるよう、日中は、パッドを外してみたり、リハパンを普通のパンツに戻したりして努力している。	一人ひとりに応じた排泄の支援をしている。さり気ない声掛けでトイレ誘導したり、夜間の睡眠を妨げないように等との細部にまで行き届いた支援を心開けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や、乳製品の摂取、運動や腹部マッサージ等試みたり、排便チェック表により、医師や訪看の指示のもと、便薬調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望のある人にはできるだけ添えるよう日程や時間を調整し、ゆっくり入浴できるよう支援しているまた体調不良の場合は、臨機応変に対応するように支援している。	入浴剤や菖蒲・ゆず湯等季節感も取り入れ、入浴を楽しむ支援を心がけている。一人でゆっくり入りたい方には見守りながら時間をかけてゆっくりと個浴を楽しんでもらう支援やその日の体調に合した入浴方法等で個々に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自然に睡眠がとれるよう雰囲気や環境作りで入眠に導入できるよう、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を把握し、服薬支援と症状変化の観察、確認、報告に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までしてきたことや、今できることを声掛けや一部援助で行っている。またカラオケや興味のあるレクリエーション等で、楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い時はなるべく外出の機会をつくり、近所の散歩や、ドライブ、地域の公園を利用しての花見や、お弁当、おやつ外出等行っている。また地域の神社の祭りに参加し、地域の人々との交流の機会をもっている。	その時その時に応じた外出の支援を心がけている。近所の神社や公園等への外出は地域住民との交流の場になっている。行事担当が計画した外出の支援や家族の協力で外出する機会も設けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて、管理している方もいるが、家族の希望により、こずかい帳を付け、事務所でお金を預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話を掛けたり、掛かってきた場合は取り継いだり、代って聞き、伝えたりしている。年賀状程度は可能な人もあるが、手紙はなかなか難しい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほぼ100%玄関は、解放していて自由に入ることができる。共有フロアには、季節感のある飾り物をしたり、季節の花を飾ったりして、利用者が居間で過ごしたり、和室で過ごしたり、時には外に出て自由に過ごせるよう工夫している。	共用の空間には季節を感じる飾り物や写真等が貼られていたり、テレビの音量や職員の話し声等にも配慮されており、利用者が居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で過ごしたり、皆の居る所へ来て過ごしたり、時には玄関前のベンチで過ごしたり、思い思いに過ごせる居場所」づくりの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り今まで使用していたなじみのものや、思いで野茂のを持ち込んでもらうよう支援している。	居室には馴染みの家具や家族の写真等があり、利用者一人ひとりが不安なく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の掲示や、居室に名札を付けたり、目印になるものを付けたり貼ったりすることにより、館内での生活ができるだけ自立できるような環境づくりを支援している。		